

## ■研修を終えて

8月19日（土）に高雄で、20日（日）に台北で開催された「日本語教師研修会」の講師を担当いたしました。テーマは、「ピア・リーディング入門—学びの場のデザインと教師の役割」でした。

内容について簡単にご紹介いたします。今回は、「読解」がテーマでしたので、みなさんの「読解授業」に関する問題意識をうかがうことからスタートしました。教師主導の一方的な授業になりがちなことや、読むことへの苦手意識をもつ学生が多いことなどが指摘されました。それをイントロとして、第1部は「ピア・リーディング」の定義やその活動を支える「協働」の概念について検討しました。それをふまえて、第2部では、私自身が日本で実践している読みの授業について紹介をしました。「学習者体験」として、実際にテキストを読み、「課題」に取り組んでいただきました。また、私の授業で学習者たちが話し合った結果をまとめてA3用紙に書いてもらったものを提示し、学習者たちの回答について検討しました。話し合いにおいては、「可視化」すること、またそれぞれの意見の「重なり」と「異なり」を検討し、なぜその異なりが生まれたのか、テキストのどの部分はその根拠となるかが重要であることを確認しました。

続いて第3部では、ここまでで紹介した「ピア・リーディング」をふまえて、グループ活動をすれば全て「協働」が実現していると考えてよいかという問題提起をしました。ここで、正解がある問いに対して学習者同士が協力してなるべく早く解答を見つけるような活動を「互助型協働学習活動」、正解がない問いに対して学習者たちが協力して新たなものを生み出すような活動を「創造型協働学習」と呼び、その違いは教育観／学習観の違いから出てくるのではないかと考えました。また、互助型に見える活動も、そのプロセスに注目することで協働型に変換できると考えられます。グループ活動をすれば全て「協働」ということではなく、協働によって何をめざしているのか、教師は考えなければならないと思います。

第4部は、これまでの「ピア・リーディング」の議論をふまえて、実際に参加者の方々に「ピア・リーディング」の授業をデザインしていただきました。参加された方々は、中学、高校、大学等で日本語を教えていらっしゃる先生方で、現場の問題意識から活動内容を考えてくださいました。ポスター発表の形式で、ほかのグループの授業プランを見て回り、質疑応答をし、会場は熱気でいっぱいとなりました。

夏の土曜日、日曜日の午後の3時間、日本語を教えていらっしゃる先生方が集い、情報交換をしたり学び合ったり、まさに「学び合いの場づくり」であると感じました。私自身は日本で授業を行っており、台湾の先生方とは別のフィールドにいますが、それでもやはり教師としての問題意識や現場での取り組みには多くの共通点を感じ、共感しました。一方、事前に相違点をもっと熟知していれば、さらに具体的なアイデアについて話し合えたのではないかとも思いました。

実は、10年前にも交流協会の巡回セミナーでピア・ラーニングの研修を行いました。当時は、ピア・ラーニングということばも耳新しいものでしたが、今回は、そこからさらに進めて、日本語学習における協働の意義について掘り下げて検討できたのではないかと思います。

舘岡洋子（早稲田大学大学院日本語教育研究科）